

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 6年 3月 20日

事業所名 こぼんはうすくら 二俣川教室

保護者等数(児童数) 40名 回収数 27枚 割合 67%

	チェック項目	評価			ご意見	ご意見を踏まえた対応	
		はい	どちらとも いいえ	いいえ			わから ない
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	18	5		4	自分の子供が多動なせいだが、少し狭く感じる時もある。	人数が多い場合や、動きが多い児童がいる際は、2部屋に分けて活動場所を提供していく。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	24	1		2	そう思う。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	26			1	ホワイトボードでのスケジュールや利用する子どもたち、先生の写真などを目で確認できるので分かりやすい。	視覚化の支援を引き続き行っていく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	27				そう思う。	
適切な 支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	26			1	そう思う。	
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	25			1	そう思う。	
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	26	1			毎回、連絡帳で評価して下さるので分かりやすいです。	支援計画の目標を踏まえて連絡帳に具体的な様子の記入をしていく。
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	23	2		2	色々な活動をして頂いてありがたいです。こぼんで家でやったことない遊びに挑戦して、家でもやりたいと伝えてくれる時があって驚いた。	新しい体験をして興味の幅を広げると共に、繰り返し挑戦して成功体験を重ねて自信に繋げられるように支援していく。
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	5	4	2	16	今のところないよう思える。	公園などでの交流はあるが、児童施設との関わりが持ていない為、交流ができそうな機会や施設を検討していく。
	10 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	27				契約の際に丁寧に説明して頂けた。	見学の際や利用契約の際に、引き続き丁寧な説明を心がけていく。
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	24	1		1	そう思う。	
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか	17	3		6	昨年12月に勉強会があったので今後も定期的にあるとよい。	昨年の12月に3日間の保護者会を開催し、その中で子どもたちへの言葉かけについて話をしたが、特別講師を呼んだり、年間を通しての開催ができるよう検討していく。
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	26	1			連絡帳でのやり取りや送迎時の立ち話、面談の時に伝えあうことができている。トラブル発生時も電話や面談などですぐ相談に応じて頂いた。	どの職員も保護者様との関わりを持てるように送迎時や電話などの時間を確保していく。
保護者 への 説明 等	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	26	1			支援計画の見直しの際に面談の時に支援して頂いている。幼稚園での関わりや家庭での関わりについてお話を伺いながら進めていく。	育児に困っている保護者様の様子を気にかけてながら、定期的な面談とともに適宜状況の確認ができるよう連携を続けていく。
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	17	3	4	3	昨年12月に初めて保護者会があり、子どもが普段家で話している友達のお母さんと話すことができ、交流することが楽しめた。他の親御さんたちと話す機会があれば良い。距離感を増やしてもらえると嬉しいです。先生方がたくさんいて、都合相談に乗ってもらえるのはとても助かります。	勉強会とは別に、定期的に気軽に話せる保護者会を開催できるように検討していく。
	16 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	26			1		小さな相談や困りごとでも言いやすい環境や保護者様との信頼関係を作っていく。
	17 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	27				そう思う。	
	18 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	22	5			「こぼんだより」や書面で知らせて頂いている。会員のHPなど、ネットで見られる制度があれば嬉しいです。活動の便りをもっと定期的にすると良い。	便りの頻度を増やしていく。ネットやアプリなどの連絡ツールができるよう検討していく。
	19 個人情報の取扱いに十分注意されているか	27				別のお子さんの物が入っていたことが今まで一度もなく、十分注意して頂いている。	入れ間違いや忘れ物などがないように複数の職員で確認し、声掛けなどで周知していく。
	非常時 等の 対応	20 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	21	1		5	避難訓練の実施は連絡帳や便りで知らせて頂いているが、その他は不明。
21 非常災害の発生に備え、定期的な避難、救出、その他必要な訓練が行われているか		20			7	そう思う。定期的な避難訓練の実施があるかは不明。	同上
満足 度	22 子どもは通所を楽しみにしているか	27				子どもが「明日バス?こぼんだつち?」と毎日のように聞いて楽しみにしている。こぼんに行く日は「やったー!」と言っている。	児童同士の間取りや職員との関わりを引き続き大切にしていき、信頼感や安心感を作っていく。
	23 事業所の支援に満足しているか	27				いつも優しくあたたかく接してくれて本人も安心して通っています。職員さんのおかげで自分も少しづつ進歩しています。	翌月のプログラム内容に関して公表していくか検討していく。
		534	28	6	50	86%	

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 3月 20日

事業所名 こぼんはうすくら 二俣川教室

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	11	1	人数や児童の年齢、活動内容に合わせて他の部屋を使用している。	職員の死角になってしまう場所や、ドアにぶつかってしまいうような時もあるので、スペースに余裕をもたせたい。

環境・体制整備	2	職員の配置数は適切であるか	10	2	児童人数に対して職員人数の方が多い場合は教材制作や事務作業などを分担している。	休日の際は職員数に余裕が待てず、休憩などは時間配分を考慮している。 クールダウンできる静養室の場所を確保できるとよいと思う。 玄関やトイレに段差があるのでバリアフリー化は
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	9	3	玩具を児童に見えない場所に置くことで、活動のメリハリがいった。 視覚支援や選択決定への配慮が行われている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	12		毎日必ず清掃を徹底している。 衛生管理をし、清潔で心地よく過ごせるよう努力している。	
	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	10	2	業務の効率化や児童教材の見直しをしている。 昼食後などに職員全員で共有できるようプチミーティングを行う時もある。	職員同士で意見が言いやすい環境や機会を設けていく。
業務改善	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	12		評価の結果を教室内で共有している。 権力保護者様の意向に沿えるようにしている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	12		新しい取り組みなどは便りなどで公表している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	8		外部評価をされていないと思う。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	4	eラーニングなどの動画研修を行っている。	関係機関への見学などがあると尚良いと思う。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	12		アセスメントシートにより保護者のニーズの聞き取りをし、作成している。	
適切な支援の提供	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	11	1	発達状況の指標として活用している。	
	12	児童発達支援計画には、「児童発達支援ガイドライン」の「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	12		提供すべき支援を子どもの支援に必要なものに適切に計画に反映されている。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	12		連絡帳に個別の目標を貼り、確認しながら支援をしている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	11	1	月間予定により担当を決め、ワークプログラムはチームで立案し実行している。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	12		利用日の子どもに合わせて提供し、内容を表に記録し確認しながら活動を考えている。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成している	12		一日のスケジュールの中で組み合わされている。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9	3	その日のプログラム内容や時間配分、支援担当などを打ち合わせしている。 細かい内容は表に確認しやすくしている。	迎えの送迎の後に打ち合わせをすることもある。 朝の送迎前にその日出勤する職員が揃わない送迎時など、隙間時間に振り返りを行っていることもあるが、療育現場に入っていた全員と必ずしてはくはない
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8	4	モニタリングシートなどを活用し、行われている。毎日ではないが気付いたことを話し合っている。 職員間の連絡帳で意識すべき点を共有してモニタリングシートと職員間の連絡帳に記入している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	12			
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	12		職員の振り返りなどを児童発が現場で確認している。 複数の職員で支援計画の見直しをしている。	
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	12		児童発が担当、参画している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	8	4	担当の職員が関係機関に訪問し、連携をとれるようにしている。	他機関と連携しているか分からない。
	関係機関や保護者との連携	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	4	8	保護者を介しての連携はできている。
24		(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	3	9	保護者を介しての連携はできている。	医療ケアが必要な児童がいない。
25		移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	12		園への見学や電話連絡、資料の共有など行っている。 教室で使用している視覚支援の教材の同じ物を提供したことがある。	
26		移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	10	2	子どもの特性や現状を书面化して保護者様経由で提出してもらっている。	
27		他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8	4	ケースに応じて連携している。	
28		保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1	11	公園などでふれあうことはある。	園や施設への交流を計画していない。
29		(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	8	4	参加している。	
30		日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	12		送迎時に保護者に子どもの様子を伝えている。 連絡帳に保護者からの連絡、相談があった際は迅速に書いても電話連絡などしている	
31		保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	9	3	季節行事と同時昨年家開催し、気軽な形態で家族支援プログラムを取り入れた。 懇談会を開催し、グループワークなどで支援	形に一回はできるようにしていきたい。 様々な曜日や時間で、多くの保護者様が一度でも参加できるようなスケジュールを立て、開催

保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	12		契約時に行っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	12		ガイドラインに沿った支援計画を提示し、面談時に説明し同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	12		適宜行っている。 保護者様が育児に困っている家庭には、煮詰まらないように送迎時に話を伺っている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	11	1	懇談会を開催し、好評を得ている。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	12		早急に対応している。 伝達シートに記入し、職員間で周知している。	
非常時等の対応	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	12		お便りを作成している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	12		写真などの公開について入所時に確認している。 配付物や持ち物の入れ間違いなどに気をつ	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	12		口頭だけでなく、メモや連絡帳などに記入して伝達している時もある。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	9		
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	10	2	マニュアルを作成し、職員にも周知されている	保護者様には周知されていない。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	12		毎月1回プログラムとして曜日や担当者をまわして避難訓練を実施している。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	12		アセスメントの聞き取りの際に確認している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	10	2	アレルギーのある児童について注意事項を表にして掲示している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	12		ヒヤリハット・事故報告シートを作成して記入、周知している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	12		動画による研修を各自行っている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	10	2	契約の際に具体的な例を挙げて説明している。	